

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ キャンディ</p>
<p>取組の名称</p>	<p>まちづくり事業</p>
<p>実施場所</p>	<p>学童クラブどれみキッズ、川崎認可保育所すきっぷ保育園、認定保育園すきっぷドレミ園、企業主導型保育すきっぷソラ園、生活クラブ高津センター</p>
<p>対象地域</p>	<p>宮崎台周辺地域</p>
<p>対象地域の特色・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅街で高齢世帯とともに子育て世帯が多い</li> <li>・核家族が多く、共働きが増えている。転勤等での転入家庭も多く、地域とのつながりが希薄になりがちな特徴があります。</li> </ul>
<p>取組の趣旨・目的</p>	<p>「まちづくり事業」を立ち上げ、豊かなコミュニティを目指して「参加型子育て」を進めるしくみを作り、「わくわくこどもカレッジみやざきだい」をたちあげました。</p> <p>「体験&amp;学び&amp;出会い チャンスと居場所づくり」をテーマに、地域の人と人をつなぐ取り組みを行います。講師・参加者は皆、この地域に住んでいる人どうしです。</p>
<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>今年度も、子どもが地域に見守られながら育っていくための挑戦として、「まち全体」をキャンパスにたとえ、そこに暮らす「人」や日常的な様々な地域資源を活かして、「子育て」を豊かにし、みんなで安心して子育てを楽しむまちづくりをめざしています。本活動を「ワクワクこどもカレッジ みやざきだい」と名付け、活動してきました。</p> <p>当法人のメンバーが、興味・関心のあるテーマ毎にグループにわかれ、それぞれ講座などを企画しました。</p> <p>6月～8月に第Ⅰ期、10～12月に第Ⅱ期の「こどもフェス」を実施し、ホームページやチラシ配布などで地域へも参加を呼</p>

	<p>びかけました。コロナウィルス対策は更に工夫して、オンライン、完全事前予約制、参加者の入れ替えなどに加え、開催方法にも工夫して行いました。</p> <p>常時開催企画として、こども食堂、ベビーマッサージ、離乳食講座、また例年実施している、クリスマスコンサートも、コロナウィルス対策をとりながら、実施しました。</p> <p>こども食堂は、月2回。コロナウィルスの感染状況を見ながら、事前に予約を受けテイクアウトのみで実施してきました。地域の方々からの提供品は増える一方でこども食堂参加者へのお土産、必要としているの方々への提供も合わせて行いました。</p> <p>未就園児対象の「親子リトミック。親子ヨガ」は年10回行い、ベビーマッサージは、受講者から離乳食のスタンを受ける機会が増えてきたことから、地域講師の方同士で声を掛け合い、9月より「ベビーマッサージ&amp;離乳食講座」とコラボ開催となりました。</p> <p>「初めての子育て応援ブック」は子育て応援テキスト第3弾「遊び編」を作成し、園利用者のみならず、地域に方の手元にも届くように子供向けイベントで配架してきました。</p> <p>「星空ウォッチング」1回、「ガチャポンヘッドホン作り」1回、「プログラミング」1回、「アイシングクッキー」2回、なども前年度に引き続き、地域講師の方をお迎えし、行いました。</p> <p>その他、生活クラブや大塚町内会のイベント時に「お下がり交換会」を一緒に行いました。</p>		
参加者の年代	大人：子育て世代 子ども：乳児～小学生	定員 (1回あたり)	講座により様々。 2組、10組、12組、5名など
実施頻度	講座による。 月1回、3か月に1回、年1回など	活動日数 (年間)	77日
スタッフ体制	ワーカーズ 42名。 それぞれ企画を担当しました。		

<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>① かわさき生活クラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣の高津区、宮前区の組合員へチラシを配布。この活動の周知と参加を呼びかけました。</li> <li>・ 配送センターの部屋を借り、クリスマスコンサートを実施。</li> <li>・ 生活クラブの組合員と「親と子のふれあいひろば」を実施。地域の親子の交流の機会を設けました。</li> </ul> <p>② 地域住民へ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こどもフェスのチラシを配布し、参加をよびかけました。</li> </ul>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園利用者以外に、地域からの参加者もあり、その後、当園が主催するオンライン講座への参加につながりました。(参加人数延べ 529人)</li> <li>・ 地域の方講師のイベントが増えてきて、幅広い内容で行えています。</li> </ul> <p>また、定着化してきている企画にはサポート側に付き、「地域の方のやってみたい」を応援していく仕組みが作られつつあります。</p> <p>・ 「こども食堂」は、今年度もコロナウィルスの影響で、テイクアウトを継続して行ってきましたが、3月の最終回からリアル開催が行えるようになりました。ライオンから提供いただいた「おくちからだプロジェクト」を中学生ボランティア2人と一緒に行うことが出来たことは、本来実施したかった内容です。参加者にも、中学生ボランティアにも充実した時間になりました。</p> <p>イベントへの参加者には、単発のイベントに多数参加されている方がいて、常時開催講座には継続しての参加も増えてきています。また、ボランティアの申し出も多くなってきました。参加者や講師、またはボランティアのつながりが少しずつ見えるようになってきたことは成果です。</p>